

はる け し き つく し がた な じ ま もうで

春 景 色 筑 紫 潟 名 島 詣

～ あらすじ ～

公演時間
約 30 分程度

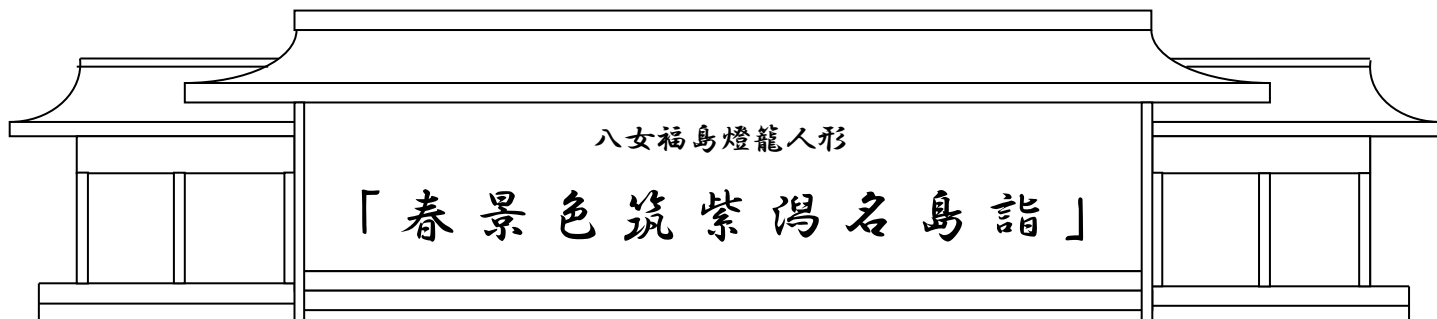
 ⑤ウトウトと酔いしれてしまった大名たちの夢の中……、衣をまとった舞姫姿の弁財天が、そばで仕える十五童子のひとり金財童子を連れ立ち現われます。	 ①弁財天をあつく信仰する大名一行が従者を引きつれ、筑前・名島神社（福岡市東区に現存）に詣でることにしました。
 ⑥夢の中の弁財天は名島神社から愛宕の宮、宮崎八幡と場所を移して舞い踊ります。	 ②名島神社がある筑紫潟は、やわらかな春風が吹き、帆をあげた小舟はのどかに行き交い、その帆影は春の波間に漂っています。
 ⑦千代の松原にも降り立ち舞い踊る弁財天……最後にまた名島神社に舞い降りしました。	 ③咲き誇る桜の花は、名島神社をうす紅に染めあげ筑紫の国は春たけなわです。大名一行は、その門前の茶店で盃を傾けていました。
 ⑧夢の中の弁財天は周囲に桜吹雪が舞い散るなか、金財童子を連れ立ち、心ゆくまで社前で舞い遊びました。	 ④盃を傾けていた大名たちは春の情景に酔いしれ思わず盃が進み、いつの間にかまどろむのでした。

～ 千代にかけて
おさまる御代の民草は
千里の外も ゆたかなる

～ 波の鼓や松風の
琴のしらべのいと清き
袖の浦曲のうら／＼と
見る眼のどかに遠近の
山もかすみて春景色
げにおもしろの舞衣
(中略)

～ 花もわらいし草葉の上に
遊ぶ小蝶のひら／＼と
番はなれぬ妹背中
今は人目の中垣も
むすばでひらく宮崎の
千代の松原までと

～ 海女の釣舟漕ぎつれて
帰る千鳥のちら／＼と
なぎさに集ううない子が
拾いし貝のかず／＼を
とりどり歌う一ふしや
その一ふしを今こゝに
うつして御代を祝いける



名島、愛宕、宮崎、千代、現在も福岡市内でおなじみの海辺の名所です。
みなさんは、いくつ訪ねたことがありますか？



弁財天の雅な舞を大名と一緒にご覧ください。物語の起伏は少ないですが、当時の名所を思い浮かべながら、弁財天にいざなわれて旅番組を見るように楽しむのもよいかと♪

舞台に出演する人形のお役どころは・・・？



 **弁財天** (横遣い人形)
七福神の一柱としてお馴染みの神様。物語の中では雅な舞で、大名一行をいざないます。



 **金財童子** (下遣い人形)
弁財天に従う十五童子のひとり。薬師如来の化身で商売繁盛の神とされています。



 **御女中**
(横遣い人形)



 **大名家臣** (飾り人形)
※舞台上では動きません
弁財天を信仰する家臣。一行を連れて詣でます。

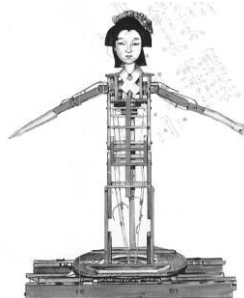
今年も
キツネは出ませんヨ！



舞台内部はどうなっているの・・・？

きょうげんかた 〈狂言方〉

人形の遣い手と囃子方の呼吸を合わせるのが狂言方です。舞台上下層でお互いが見えないなかでも狂言方の拍子木で間合いを整える大事な役割です。



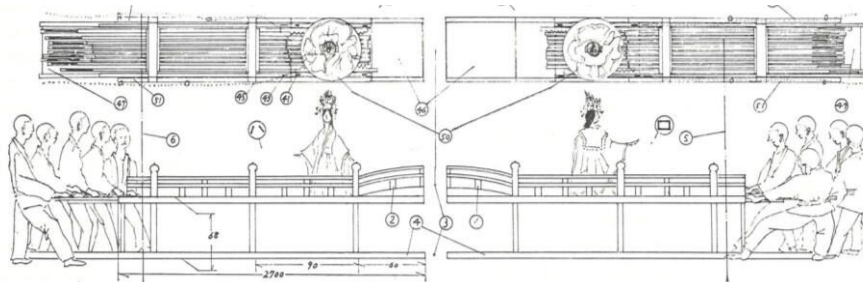
うた はやしかた 〈唄・囃子方〉

物語を語る唄、情景を演出する三味線、場面にいそろりを添える鼓など。仕切り太鼓の絶妙な間合いに合わせて、それぞれが掛け合うお囃子が聴きどころです。人形の動きに合わせて進めるので、生演奏でおこないます。

よこづか 〈横遣い〉

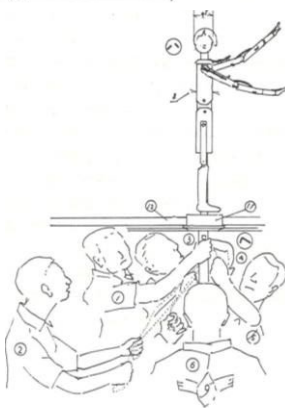
左右それぞれ6人で動かします。舞台袖の離れた所から、こまやかな操作をするのはとても難しい技です。

なかでも人形が左右の橋を渡る「送り渡し」は横遣いの見せどころ。左右の横遣いの息の合った操作にご注目！



したづか 〈下遣い〉

舞台の下から6人で一体の人形を動かします。見上げて操作するので体力いりますよ～！



いしやうかた 〈衣裳方〉

衣裳の早変わり「素抜き」など、人形の衣裳は次々と変化にとんでいます。人形の衣裳や髪などを整えるお世話役です。

